

The Northern eXpress to 212

NeXT-212 press

134

オンラインプレス「NEXT212」毎週月曜日発行
PM実践講座事務局 / 地域メディア研究所
Fax (011)761-8483 Tel (011)761-6039

vol.134 25.Aug,2003

市町村合併の論点(19)	続・合併協解散の背景
最前線レポート	生ごみバイオガスを公用車燃料に
ふるさと情報	市職員による行政セミナー
自治体北南	下流に呼応し上流域でも水源保全基金
DATA	グリーン購入 20%が積極策

ああ言えば、Do.You!

...増田寛也・岩手県知事はじめ改革派知事らによる「地方分権研究会」が、高校生を対象にした「日本のリーダー養成塾」の開設を目指している。プログラムの柱はこの3つ。自分の考えを持ち国際的なバランス感覚を磨く、ディベートの素養と技術の習得、自己表現力・コミュニケーション能力の習得。

...いずれも現在の学校教育に欠けたテーマにほかならない。国際感覚のベースとなる歴史認識などは、むしろ教育が避けてきた面さえある。したがって、上から下への「^{スピーチ}教鞭型」ではなく、生徒自身が考えをぶつけ合い、理論を組み立てる「^{ディベート}討論型」の塾が展開されることになりそうだ。

...直接的な物言いを避け、和を持って尊しとなす日本型の思考から、ディベートは理屈屋の書生論と敬遠されがちだった。「朝まで生テレビ」は、持論を譲らぬ^{アークメント}口論をそれと印象付けた。しかし、対立する考えを検証し合いながら、より高い次元の解決策を生み出すのが本来のディベートの姿なのではないか。

...だから、旧来の価値観や制度が揺らいでいる時代にこそ、ディベートは羅針盤の役割を果たす。異論や反論、少数意見にまず耳を貸すことが大切だ。国際ディベート学会の松本道弘会長は言う。「優れたディベーターは情感豊かな聞き上手であることが条件だ」と。(梶)

市町村合併の論点(19)

続・協議会解散の背景

兵庫県北部5町 庁舎問題、最後まで平行線

兵庫県北部の美方郡村岡・浜坂・美方・温泉4町と城崎郡香住町による法定の合併協議会は、2002年10月の発足から1年近い議論の末、解散を決めました。

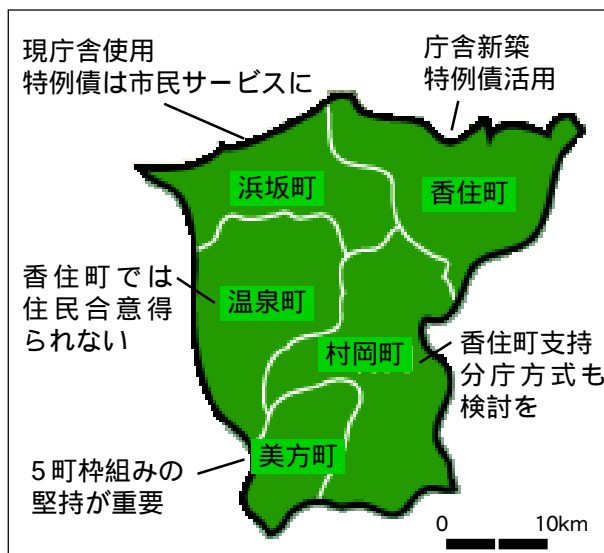
産業連携・総合力発揮に大きな期待

三方郡4町で人口約2万8千人、これに東に隣接する香住町が加わることで、新市誕生が可能に。単独では一産業に依存しがちだったのが、日本海の恵みを受ける水産業と「但馬牛」ブランドを核とした農畜産業、さらに温泉観光などの地域資源を結び付けることで総合力を発揮する。そんな5町合併の可能性は「海・山・温泉人が輝く、共生と交流のふるさと都市」というメインテーマに象徴されました。

7月までに9回の協議会を開催し、合併の方式、期日、新市建設計画などの最終調整を残すばかりとなっていました。最大の論点となった新市の庁舎問題は、小委員会方式で12回にわたり議論を重ねながらも合意が得られず、町長・議長会のトップ協議も不調におわりました。

生活圏と行政の軸にギャップ

新庁舎問題は、人口が集積する浜坂町(約1万2千人)か香住町(約1万4千人)かに絞られ、村岡町は「香住」案を支持、美方町が態度を保



留、温泉町は「香住」案に強く反対の姿勢を取りました。温泉町は、香住町との市街地間の距離が約30キロもあり、反対方向にあって買い物や通院の依存度が高い隣県・鳥取県の鳥取市(距離約35キロ)との関係などから、「香住案では住民の理解は得られない」というのが理由です。

小委員会の議論の過程では、庁舎位置を絞り込むため、合併先進地の事例を参考に事務局がワークシート方式の選考基準も作成しました。主な項目は次のとおりです。

事務所、官公署までの距離、交通事情を含めた住民の利便性

本支所の在り方を含む行政機構の一体性

新市建設計画と整合した長期的な展望

兵庫県 町村名	面積 (km ²)	人口 (人)	職員数 (人)	財政力 指数	1人当り 積立金(円)	1人当り 地方債(円)	経常収支 比率(%)
香住町	137	14,363	138	0.34	155,707	660,991	80.4
村岡町	166	6,882	90	0.21	85,646	1,156,950	84.8
浜坂町	103	11,618	138	0.29	55,995	624,593	85.8
美方町	66	2,701	54	0.12	352,658	1,854,108	88.3
温泉町	138	7,620	99	0.25	206,728	705,191	83.6

既存
建物の規模、機能を
生かした
効率的な
活用

兵庫県北部5町の概要(2000年度決算から)

特例債活用で「同床異夢」

兵庫県北部5町の合併協議会では、新市庁の立地点を客観的に絞り込むための工夫も凝らされたほか、最終局面においては5町の枠組み維持を目指して本支所の分庁案も提起されました。しかし、香住町の新市庁案に反対する浜坂、温泉両町議会が全会一致で解散を決め、5町の枠組みは白紙に戻りました。「5町の善良な関係を保つため、今こそ勇気を持って白紙に戻るのが円満解決の道」(馬場雅人・温泉町長)という言葉が、合併協議の難しさを物語っています。

市庁立地問題と絡み考え対立

この間の合併協議を再検証すると、新市庁の立地問題が不調の要因とはいえ、必ずしも単純な「綱引き論」の行き詰まりではないということが分かります。特に、市庁問題に絡んで合併特例債をどう新たなまちづくりに活用するかという点で、考え方の大きな違いがあったことが注目されます。

合併後の新市のまちづくりのための建設事業に対して措置される合併特例債は、5町の場合で最高約250億円(事業費ベース)に上り、うち約145億円は地方交付税で措置される見込みです(試算)。合併から向こう10か年の事業が

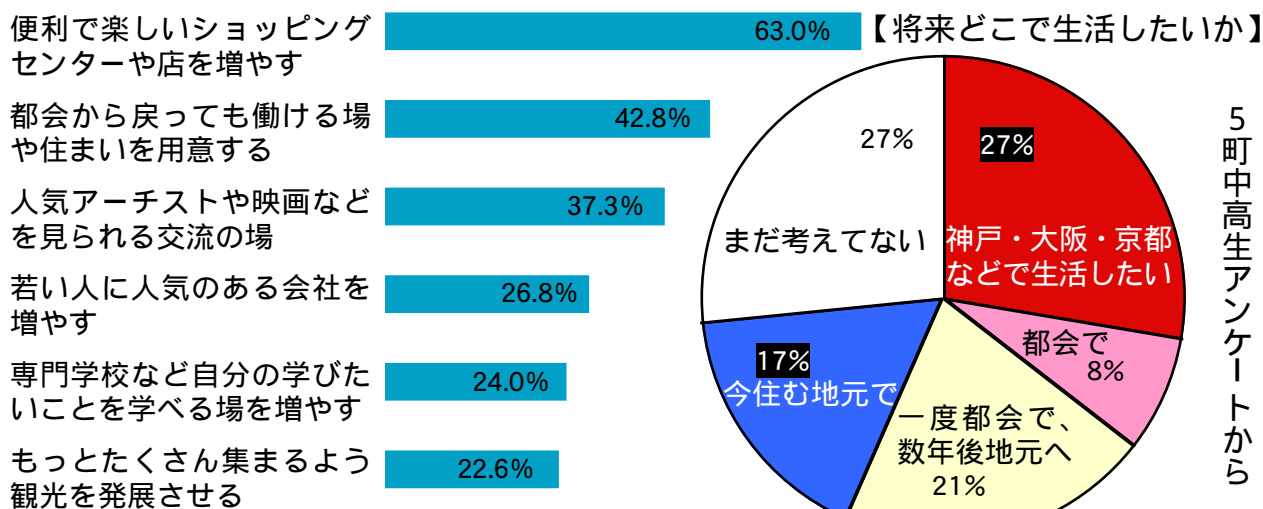
対象で、合併のメリットの柱とされていますが、新市庁舎検討小委員会では、大きく意見が対立しました。

共有財産に充たか住民サービス優先か

香住町内に庁舎新築を主張する同町は、現役場からの移転に伴う補償費とそれまで積み立ててきた庁舎建設基金などを充ててもなお不足する分について、特例債を利用したいと提案。新庁舎は合併により5町の共有財産となるのだから、新市計画の事業などを勘案しながら一定程度特例債を振り当てるという考え方です。

これに対し、浜坂町は、現在の同町役場庁舎を新庁舎に充て、ほかの既存施設も活用すれば経費も最小限で済み、「特例債はできるだけ住民サービスに関わる事業に充当すべき」という主張です。新庁舎を合併後の新市のシンボルとする考えを牽制しながら、行財政基盤の強化・行政の効率化という合併の主目的を重視しようという考え方です。

結果的には、特例債をどう活用するかも含めた新しいまちづくりのための具体的な議論に入れず、決定的な対立を避ける形で解散に向かったともいえます。



【若い人が増えるために必要なこと(複数回答)】

「二者択一」の壁を打ち破れ

美方郡4町と香住町の合併協議会は、住民の満足度を定量的に調査したり、中高校生ら次代を担う住民の意見にも耳を傾ける一方、できるだけ客観的なデータに基づいて新庁舎問題の解決を図ろうとするなど、評価すべき点が多くあります。しかし、その一方で、解散に追い込まれた要因として、次のような点が指摘できるのではないのでしょうか。

合併によって何を指すのか、大前提となる基本理念についての議論が不十分だった

「あれか・これか」の二者択一論から抜け出す、創造的な議論に発展させられなかった

合併特例のタイムリミットが、結果的に議論を熟成させる上で、ネックとなった

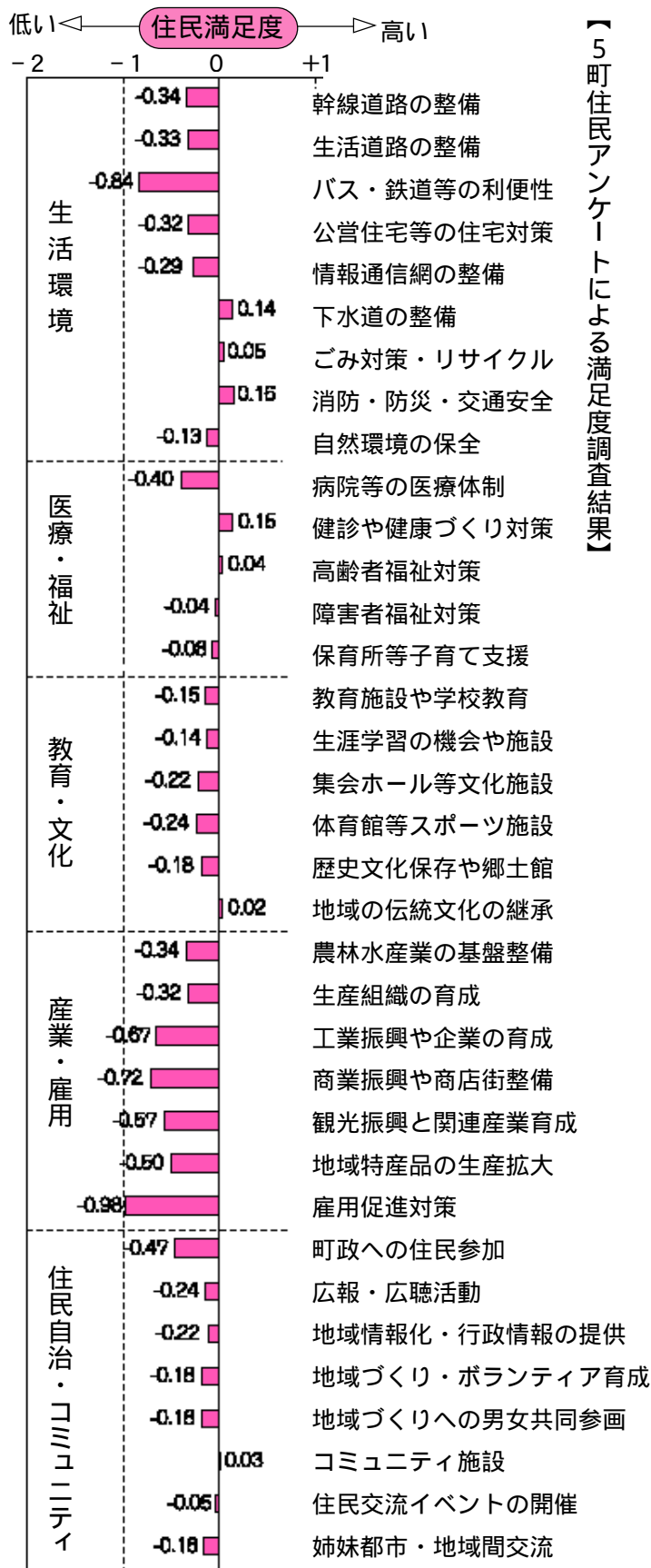
このうち、二者択一論は、しばしば合併協議をデッドロックに乗り上げさせる要因となっています。議論が螺旋状にグルグルと回転するばかりで、結局は妥協か懐柔による決着を待つしかないという状態です。

ライフポート・ロジックのすすめ

これは日本的な解決法としてプラス面もありますが、従来の流れを打ち破る中から新しい道を切り開こうとする場合には、有効な手法とはいえません。また、欧米流のディベートによるオール・オア・ナッシングの議論でも、説得はできても多くを納得させることは困難でしょう。

そこで、問題解決のためにこんな視点はどうでしょう。9人の水難者を前に6人乗りの救命ボートしかない場合、「3人には死んでもらう」という数学的な思考ではなく。例えば、数人が代わる代わる泳ぎながらボートを漕ぐといった工夫もあるはずで。

これは「ライフポート・ロジック」と呼ばれる思考法なのですが、合併をめぐる問題は、まさにライフポートをどう生かすかという議論なのではないかと思えます。



【5町住民アンケートによる満足度調査結果】

バイオガス抽出し公用車の燃料に

神奈川県横須賀市は、地元企業の住友重機械工業(株)と共同で、生ごみからバイオガスを取り出し、自動車燃料とするための研究を2001年度にスタートさせ、既に研究調査に基づく実証試験の段階に至っている。

ごみの減量化・資源化は、自治体にとって最大のテーマだが、「燃やせるごみ」の中でもその30～40%を占める生ごみからバイオガスを取り出すことに着目。メタン発酵により得られたバイオガスを圧縮天然ガス自動車燃料に精製して、実際にごみ収集車を走らせることを目的としている。

「燃やせるごみ」を選別利用

実用化されれば、生ごみを資源として活用できるとともに、ごみ焼却量の減少も期待できる。さらに、バイオガスを自動車燃料とすることによって、排気ガスによる環境負荷の軽減を図ることにもつながるとして、期待されている。

研究の課題は、第1に、家庭から排出する「燃やせるごみ」から、バイオガス化に適する「生ごみ」を効率的に選別すること。第2に、コストに見合う形で、バイオガスの自動車燃料としての実用化ができるようにすること。

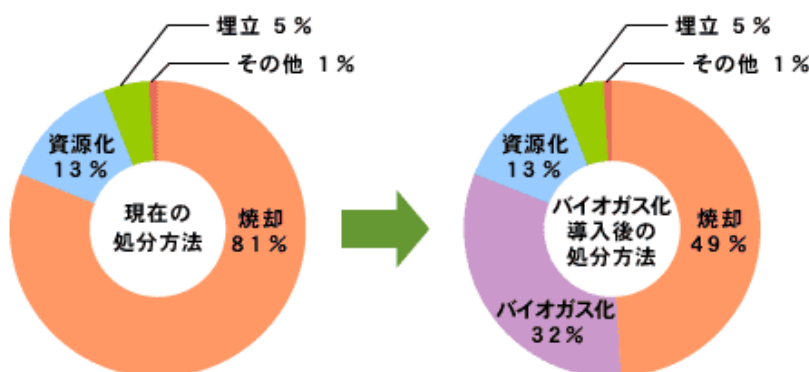
初年度の調査研究では、燃やせるごみから生ごみを選別する設備や生ごみを発酵させる設備などについて、調査を行うとともに、燃やせるごみの組成分析調査や選別予備試験を実施した。この結果、燃やせるごみ中の生ごみの割合が50%であれば、燃やせるごみ2トンから抽出された「選別ごみ」は1.28トンとなり、そのうちの生ごみの割合は76.6%となることが確認された。このことから、燃やせるごみから生ごみを取り出し、バイオガスを得ることは十分可能との結論を得た。

700台まかない、燃料電池にも応用

市は、年間発生する約5万トンの生ごみから抽出できるバイオガスは約420万立方メートルと推計。自動車700台分の燃料に相当し、市が保有する公用車638台すべてをまかなえる計算になる。

プラントでは、システムの安定性や燃やせるごみに含まれる生ごみの割合が変動しても安定した選別ができることの確認。燃やせるごみを全量焼却した場合と、焼却施設とバイオガス化プラントを組み合わせた場合の経済性、環境負荷の比較も行うこととした。

最終段階では、自動車燃料としての適性を確認すると同時に、将来の技術革新を考慮し、天然ガス自動車利用以外に燃料電池への適用やガスタービンによる発電なども視野に入れて研究を進めている。



(アクセスは <http://com212.com> からどうぞ)

写真は8月12日の様子です



比宇橋から新和方面



厚別川(新和地区)



里平地区



比宇川(太陽地区)

8/25 新冠町 台風被害による通行止め情報 台風10号による道路の通行止めなどの情報がアップされています。地図や写真も掲載されています。

8/25 八雲町 合併情報提供ページ 町村合併問題の情報提供ページがアップされています。これまでの経緯や町の基本姿勢のほか、最新情報を掲載するコーナーもあります。

8/25 当別町 第1回合併任意協議会 12日に開催された「第1回当別・月形・新篠津任意合併協議会」の概要がアップされています。質疑内容などがあります。

8/25 石狩市 市職員による行政セミナー 市行政セミナー2003「なるほど!まちの動き」開催情報がアップされています。役所が現在、何を考え、何をしようとしているのかを、市の職員が会話形式で説明するもので、今回は「合併」「ごみ」などがテーマです。

8/25 旭川市「新神楽橋」暫定供用へ 平成9年度から整備が進められていた「新神楽橋」の暫定供用開始情報がアップされています。400メートルを超える長大橋だそうです。

8/25 士幌町 HPのデザイン公募 役場公式ホームページデザインを公募するというユニークな企画がアップされています。コンテスト形式で、現在のホームページの観光コーナーに掲載されている施設などを参考に、トップページと観光コーナーを制作してもらうというもの。採用作品の賞金は20万円。詳しい募集、応募要綱があります。

8/25 瀬棚町 洋上風車のロゴ決まる 建設を進めている日本初の洋上風車のロゴ、愛称決定情報がアップされています。愛称は「風海鳥(かざみどり)」だそうです。

す。

8/11 厚田村 厚田むかしがたり トップ企画「厚田むかしがたり」が更新されています。今回は「くじら大騒動」。村にやってきた大きな鯨をめぐる物語です。

8/25 中川町 CD「天塩川音楽紀行」 天塩川や同町の四季をテーマにした音楽CDの発売情報がアップされています。タイトルは「天塩川音楽紀行」で神山純一さんの作曲・編曲だそうです。

天塩川音楽紀行

新緑の薫り、広がる草原、きらめく雪の結晶、そして雄大な天塩川の流れ。
中川町の美しい自然、四季の素晴らしい情景、気持ちの良い空気をテーマに「自然を音楽で描き出す第一人者」神山純一氏が書きおろした中川町の音楽です。
その美しい旋律が心にしみわたります。



CDタイトル 天塩川音楽紀行
作曲・編曲 神山純一
演奏 神山純一&J. PROJECT
曲目 天塩川-夕暮れ、ほか全8曲
発売日 2003年9月上旬
定価 2700円(税込み)
販売元 (株)中川町地域開発振興公社
TEL 01656-7-2400
FAX 01656-7-2401

9月上旬発売

NEWS

8/22 仙台市
(宮城県) 個人情報
紛失で業者に賠償請
求

仙台市は、市民税
データの一部分が紛失
した問題で、電算入
力の委託先業者に対し約1100万円の損害賠償
を請求することとした。契約に反して再委託
を行ったことが紛失の原因として、調査経費
やデータ入力作業経費などから請求額をはじ
き出した。業者に対しては既に、2年間の指名
停止処分を行っている。

8/21 小山市(栃木県) 全中学校で隣接
学区の選択制導入

小山市教委は、市内の全中学校について指
定された通学区に隣接した中学校を選択で
きる「隣接校希望選択制」を2004年度から導
入する。学校選択の機会拡大と特色ある学校
づくりなどが目的で、3年間自力で通学でき
ることなどが条件。

8/21 明日香村(奈良県) 「歴史の村」守
るため合併しない道選択

高松塚古墳などで知られる明日香村は、「明
日香村」の名前のまま残したいとする住民の
署名などを背景に、近隣市町村と合併せず単
独自立を目指すことを決めた。橿原市など周
辺6市町との任意合併協議会に参加している
が、村民アンケートでは「合併反対」が約5割
を占め、2割強の「合併賛成」を上回った。

8/20 黒保根村(群馬県) 水車でミニ発
電、森林公園の電力賄う

96年に「水源村」を宣言した黒保根村は、自
然エネルギーの有効活用と地域振興を目指し、
林野庁や東京電力の協力を得て、村営森林公
園を流れる鳥居川を活用して2004年3月から
水車による小水力発電をスタートさせる。一
般の家庭30世帯分に相当する最大発電電力22

キロワット、年間総発電量約10万キロワット
アワーを見込み、公園内の管理棟やバンガ
ローの照明などに利用する。

8/18 美杉村(三重県) 分村求める地区
住民が合併協からの除外要請

美杉村から分村し、名張市との合併推進運
動を進めている美杉村太郎生地区の住民組織
「太郎生の明日を考える会」は、同村を含め津
市など10市町村で構成する津地区合併協議会
の各委員に対して、同協議会から太郎生地区
の除外を求める要望書を提出した。同地区は
人口は約1350人で、隣接する名張市の生活圏
にあるため、「津市との合併で、いっそう不便
になる」と主張している。

8/18 佐賀県 政策評価に第三者の外部
評価制を導入

佐賀県は、99年から試行導入した県の政策
評価システムを大幅に改正し、新たに第三者
委員会による外部評価制度を導入することを
決めた。これまでは担当の各部局による自己
評価にとどまっていたが、自己評価したもの
を事務局で議論した上で、第三者委員会の評
価に付す。これにより、評価の客観性・透明性
を高める。

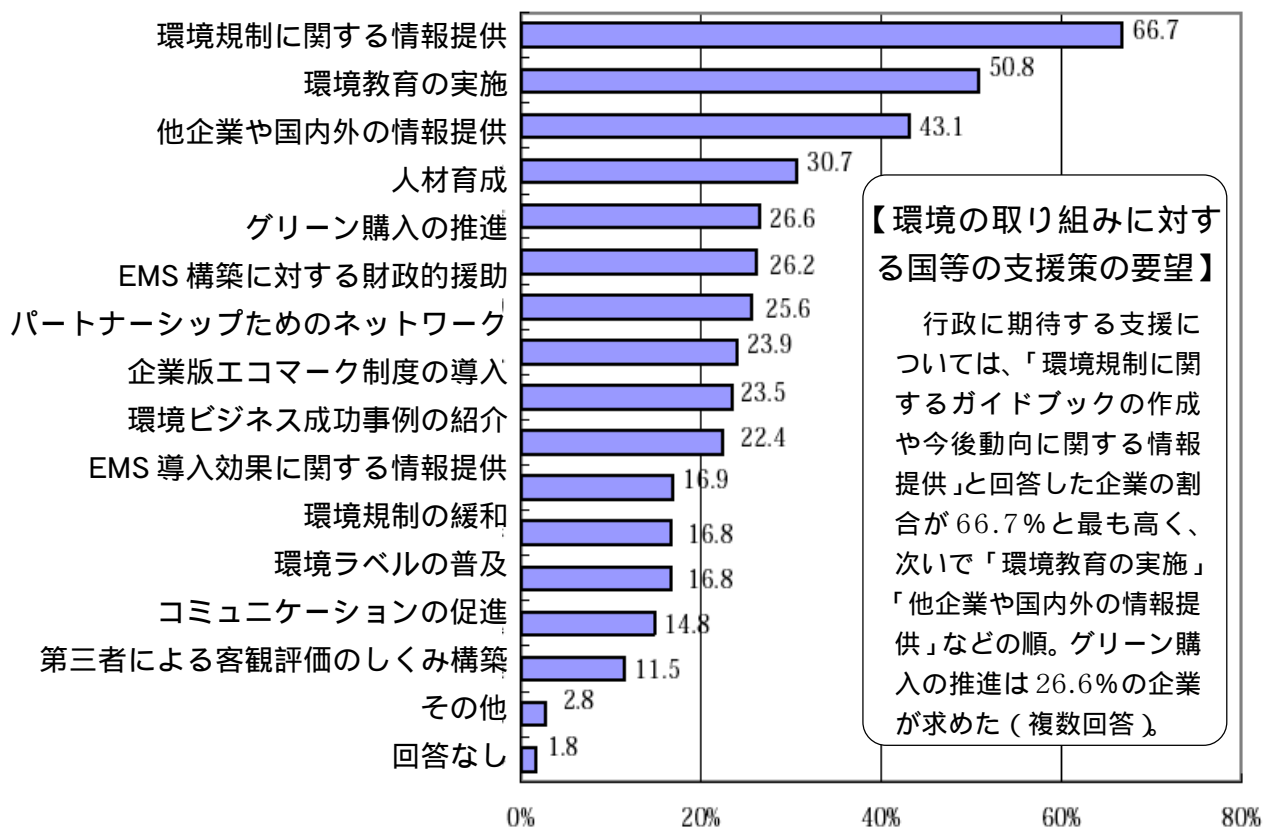
8/11 日義村(長野県) 木曾川上流11
町村も水源森林保全基金造成

日義村など木曾郡11町村による木曾広域連
合は、水源域の森林整備を目的とした木曾森
林保全基金の設置条例を策定する方針を決め
た。下流で取水する愛知県豊明市など5市町の
愛知中部水道企業団が2001から実施している
水源保全基金づくりに呼応した措置で、前年
度の総水道使用量を基に1トン当たり1円を町
村ごとに支出し、年間約460万円を積み立て
る。

(詳細情報はNEXT212編集室へ)

DATA

グリーン購入 20%が積極導入～民間企業の場合

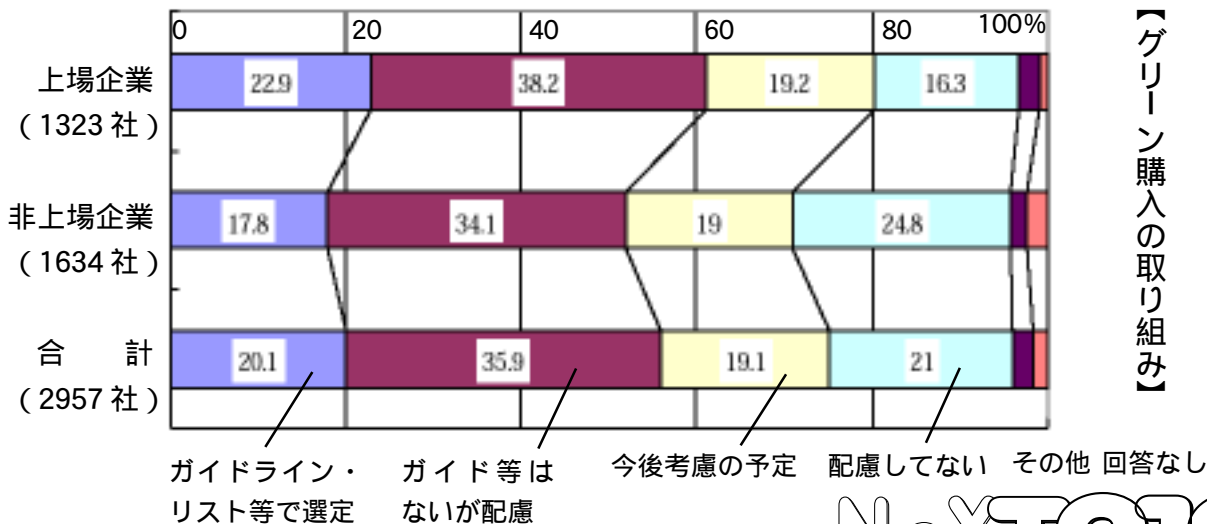


【環境の取り組みに対する国等の支援策の要望】

行政に期待する支援については、「環境規制に関するガイドブックの作成や今後動向に関する情報提供」と回答した企業の割合が66.7%と最も高く、次いで「環境教育の実施」「他企業や国内外の情報提供」などの順。グリーン購入の推進は26.6%の企業が求めた（複数回答）。

国や地方自治体では、環境に配慮した製品やサービスを積極的に活用する「グリーン購入制度」が定着しつつあるが、民間企業では、グリーン購入に関し「ガイドラインやリスト等を作成し、選定している」のは全体の20.1%。前年度調査に比べると6.7ポイント改善され、「ガイドライン等はないが、考慮している」企業も35.9%を占めた。

取引に当たって、取引先の環境に配慮した事業活動を考慮するかについては、「選定基準は設けていないが考慮はしている」とする企業が48.8%と半数近くあり、16.8%の企業等が「今後、考慮する予定」と回答した。ただし、ISO14001の認証取得等の具体的な基準を設けている企業は少数にとどまっている（環境省・2002年度環境にやさしい企業行動調査から）



【グリーン購入の取り組み】